

# 4年1組 道徳学習指導案

場 所 4年1組 教室  
授業者

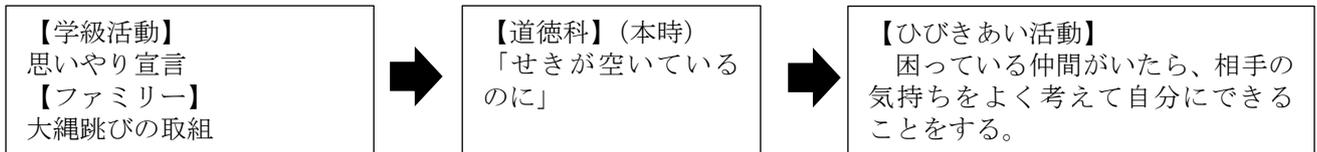
- 1 主題名 本当の思いやり
- 2 内容項目 B 親切、思いやり
- 3 資料名 「せきが空いているのに」 <出典：光文書院>
- 4 主題構成表

<p><b>■内容項目</b></p> <p>B 親切、思いやり 相手のことを思いやり、進んで親切にすること。</p>	<p><b>■価値の分析</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思いやりとは、困ったり、悲しんだりしている相手の気持ちや立場を自分のことのように受け止める心である。そして、自分の経験から相手の気持ちを推し量り、親身になって考えようとする態度から、親切な行為が生まれる。</li> <li>・子どもたちは困っている人に親切にしたいという気持ちをもっている。しかし、自分本位に何かをして喜ばれたいというのは、親切でなくおせっかいであり、親切には相手のことを考える心が不可欠であることも理解している。</li> <li>・また、困っているときでも「何もしてくれなくてもよいときがある」ということも実感しており、そうした自分の経験からも、他者に働きかけることをためらうこともある。</li> <li>・しかし、困っている人に対して手を差し伸べるばかりではなく、相手の気持ちを慮って時には温かく見守るのも、思いやりの心に基づいた行為である。そして、そうした気持ちは必ず相手に伝わり、互いの心を明るくするものである。</li> <li>・4年生ともなると多様な立場の人との関わりが増えてくる。相手の気持ちを考え、誰に対しても思いやりの心をもって自分にできることをしようとする心情を育てていくことが重要である。</li> </ul>	<p><b>■教材の分析</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おじさんのことが気になって仕方がない「ぼく」の気持ちに浸らせ、相手のために自分ができるとをしようと考える優しさ、拒絶されて傷つきたくないという2つの思いに共感させたい。</li> <li>・おじさんが席に座らなかったのに「ぼく」がうれしくなったのは、おじさんにとって何がよいかを理解し、おじさんの思いを受け入れることができたからだと考えを通して、相手の気持ちを考えて、ときにも温かく見守ることも思いやりの形であることに気付かせたい。</li> <li>・また、直接おじさんに働きかけたのはお父さんだが、そのきっかけを作った「ぼく」の行為の素晴らしさをとらえることで、自分にできることをしようとするものの価値について実感させたい。</li> </ul>
<p><b>■内容項目から見た児童の実態</b></p> <p>(意識)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの児童が思いやりの心を持ち、相手のために行動することの大切さを理解している。しかし、親切にしたいと思っても相手によっては行動に移すことができないこともある。相手に何かをしてあげるという行為こそ価値を感じており、自分の内面にも思いやりの心があることに自信をもてていない。</li> </ul> <p>(要因)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲の良い友だちや自分より弱い立場の人に対する行為は、感謝こそされても拒絶されることはまずないという安心感がある。しかし、よく知らない相手や自分より強い立場の人には、自分の行為が相手の機嫌を損ねるのではないかという不安がある。このような、相手を気遣いつつもそれよりも自分の気持ちを優先してしまう気持ちから、誰に対しても進んで親切にすることに弱さがあると考えられる。</li> </ul>		

**■ねらい**  
ぼくが嬉しくなった理由とぼくの行為のよさについて考えることで、相手の気持ちを考え、自分にできることをすることでお互いが明るい気持ちになることに気づき、だれに対しても思いやりの心をもって接しようとする心情を育てる。

<p><b>■展開の構想</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活において、相手によって接し方を変えることがあるということをつかませる。</li> <li>・困っている人を助けたいという主人公の気持ちに共感する。</li> <li>・自分と相手の願いには違いがあったことに気付く。</li> <li>・思いやりとは、相手の気持ちを考え、自分にできることを考えて接することであるという価値把握をする。</li> <li>・これまでの生活を振り返り、相手の気持ちを考え、誰に対しても思いやりの心をもって自分にできることをしようとする気持ちを高める。</li> </ul>	<p><b>■基本発問 (◎中心発問)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○杖を持っているおじさんを見て、「ぼく」はどんな気持ちになったのだろう。</li> <li>◎おじさんは席に座らなかったのに、「ぼく」が何だかともうれしくなったのはどうしてだろう。</li> <li>○相手の気持ちを考え、自分にできることをしようとしているか振り返りましょう。</li> </ul>
---	--

## 5 他の教育活動との関連



6 本時の展開

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	<p>1. 事前アンケートの結果を提示し、価値への方向付けをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大縄になかなか入れない下級生がいる。どうしますか。</li> <li>・大縄になかなか入れない上級生がいる。どうしますか。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     思いやりとは何か考えよう。                 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひびきあい週間と関連させる形で、「思いやり」について考えていく方向付けをする。</li> <li>・日常生活の思いやりが必要な場面において、相手によって接し方を変えることがあるということ、アンケートの結果からつかませる。</li> </ul>
展開前段	<p>2. 「せきが空いているのに」を範読する。</p> <p>○杖を持っているおじさんを見て、「ぼく」はどんな気持ちになったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おじさんが転んでけがなどしないかな。心配だ。</li> <li>・助けてあげたい。ぼくが何かしてあげたい。</li> <li>・座らせてあげたいけれど、何て言えばいいんだろう。</li> <li>・せっかく声をかけても、もし断られたらぼくは嫌だなあ。</li> </ul> <p>◎おじさんは席に座らなかったのに、「ぼく」が何だかとてもうれしくなったのはどうしてだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おじさんが、ぼくが嫌な気持ちになるような断り方をしないでここにこしてくれたから。</li> <li>・自分の力で何でもしたいとがんばっているおじさんの気持ちが分かったから。</li> <li>・おじさんがうれしいならぼくもその方がいいと思ったから。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     思いやりとは、相手の気持ちを考えて、自分にできることをすることで、思いやりは、おたがいの心を明るくする。                 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白杖について説明する。</li> <li>・主語を明確にした発言をさせ、誰の気持ちなのかを整理しながら話し合いを進める。</li> <li>・困っているおじさんのために何かしてあげたいという気持ちと、断られて傷つきたくないという気持ちの両方に共感できるようにする。</li> <li>・見守るというのも、相手の気持ちを考えていれば思いやりの心に基づく行為の一つの形であることに気付かせる。</li> </ul> <p style="text-align: center;">深めの発問</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;">                     ○おじさんに声をかけたのはお父さんなのに、「ぼく」が何だかとてもうれしくなったのはなぜだろう。                 </div>
展開後段	<p>3. 価値把握をもとに、自分の生活を振り返る。</p> <p>○相手の気持ちを考え、自分にできることをしようとしているか振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大縄の時、入れない子を押しして、跳べるようにしてあげたいと思っていました。でも、今日、相手によっては押ししてほしくないのかも知れないから、そんなときはまず聞いて、場合によっては見守ることも思いやりだと分かりました。</li> <li>・大縄の時、入れない子に何かしてあげたいけれど、何かして嫌がられたら今度は自分が嫌な気持ちになるのでそのままにできていました。でも、相手のことを考えて、自分にできることができたらもっと明るい気持ちになれるかもしれないと思いました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お父さんに相談したおかげで、おじさんの本当にしてほしいことがぼくにも分かったから。</li> <li>・直接ではないけれど、心配する気持ちをおじさんに伝えることができてすっきりしたから。</li> <li>・「ぼく」の行為のよさについて考えることで、自分にできることをしようとすることの大切さに気付かせる。</li> <li>・事前アンケートの質問場面と振り返りの話型を提示し、その時の行為と気持ちの両方に触れながら具体的に振り返りができるようにする。</li> </ul>
終末	<p>4. 教師の説話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「すてき見付けカード」から、思いやりの心をもって仲間に接している児童の姿を紹介する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の気持ちを受け入れ、思いやりの心をもって自分にできることをしている児童の姿を紹介し、自己肯定感を高めるとともに、実践への意欲を高める。</li> </ul>